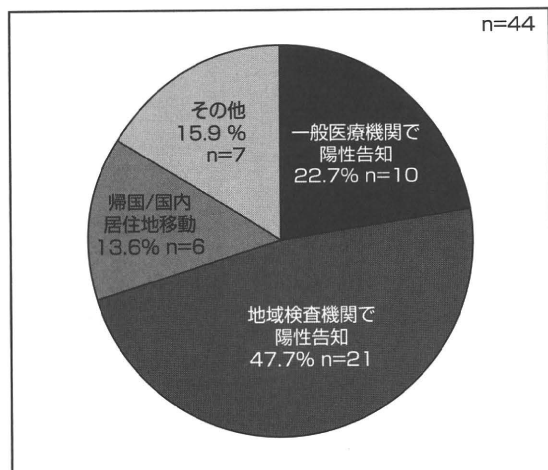


(2) 相談者の状況

相談者の状況としては、一般医療機関で陽性告知後の状況にある陽性者が22.6% (n=10)、地域検査機関で陽性告知後の状況にある陽性者が50.9% (n=21) その他海外からの帰国前の状況にある陽性者、国内で居住地移動にある陽性者などといった背景が明らかにされた (図6.8)。

図 6.8 相談者の状況



(3) 受診前相談における相談者の主訴

受診前相談における相談者の主訴であるが、44事例のうち、15事例が“受診方法を知りたい”といった内容であった。その他医療費の問題や、制度利用に伴うプライバシー漏洩に関する不安、告知の問題、入院中のパートナーとの関係、医師との関係 (他医療機関入院中) などといった内容が主訴としてあげられた。

C 考察

本調査では、19.5% (n=28) のMSWが“受診前相談を実施した経験がある”と回答した。受診前相談における主訴などから、専門医療機関受診前の状況にある地域のHIV陽性者および関係者が多様な心理・社会的問題を抱えていることが明らかになった。そして、MSWがその専門性を活かして医療情報の提供やソーシャルワーク的援助を提供することで、それらの問題

の解決や不安軽減の一助となったと言える。

一方で、受診前相談の実施が限定されているという解釈も示唆されている。その背景には専門医療機関受診前のHIV陽性者およびその関係者からの相談ニーズをMSW個人のみで拾い、対応していくことが困難である現状がその背景に存在していると言えよう。

MSW単独で受診前相談を実施するという考えではなく、院内システムとしてどのように受診前相談を実施していくか、その際MSWの担える役割機能は何かについてさらなる研究が必要と思われる。

D 自己評価

(1) 達成度について：現時点で、受診前相談の実施状況が把握できた。医療機関における受診前相談のモデルを提示していくことが必要であると考え。それら作業を通じて、エイズブロック・中核拠点病院がどのように地域におけるHIV陽性者支援を実施していけば良いか、といった構図が明らかになるであろう。

(2) 研究成果の学術的・国際的・社会的意義について

本調査は、受診前の相談に対してのニーズが存在し、そのニーズに対して実際に専門職として支援を実施している事実があることを明らかにした意義のある調査であると考え。

(3) 今後の展望

院内システムとしてどう受診前相談を実施していくのか、そしてそのシステムにおける院内外の他職種連携の構図を明らかにする必要があると考える。

院内外の連携としては、MSWへの相談経路として件数が多く報告された地域検査機関とブロック・中核拠点病院との連携をいかに深めるか、またHIV陽性者本人から直接ブロック・中

核拠点病院にアクセスできるよう情報をどのような方法で発信すべきかを検討する必要があると考える。

E 学会発表等

(口頭発表)

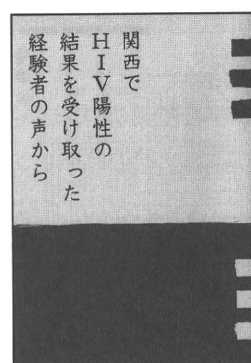
1. 山本博之,岡本学,生島嗣.エイズブロック・中核拠点病院MSWによる地域におけるHIV陽性者等支援に関する研究.第24回日本エイズ学会学術集会・総会,2010年,東京.
2. 山本博之,岡本学,生島嗣.エイズブロック・中核拠点病院MSWによる地域におけるHIV陽性者等支援に関する研究～阻害促進要因を中心として～.日本社会福祉学会第58回秋季大会,2010年,愛知.

資料 成果物一覧

「地域におけるHIV陽性等支援のための研究」では、3カ年の間に地域においてHIV陽性者とその周囲の人への支援の質を向上させることなどを目的とし、HIV陽性者の生活の実態把握、地域の支援の実態把握、支援モデルの提示、および地域の支援者の準備性向上のためのプログラム開発などの調査研究をおこなった。その中で、研究の結果を広く周知し、とりわけ地域の支援の場に還元し役立ててもらおうべく、以下のようにさまざまな媒体で成果物を制作した。

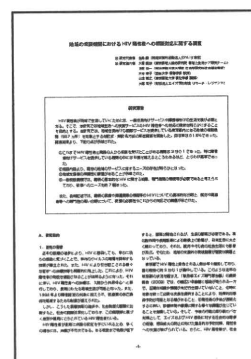
1. 「関西でHIV陽性の結果を受け取った経験者の声から」

関西で11名のHIV陽性者に陽性告知を受けた経験などについてインタビューし、各々のストーリーをまとめた冊子。陽性結果通知時の対応や支援を考える上での資料のひとつとして、パイロット版として制作した「関西地区でHIV陽性の結果を受け取った経験者の声から」（2008年11月発行）を加筆修正し、2009年3月発行。



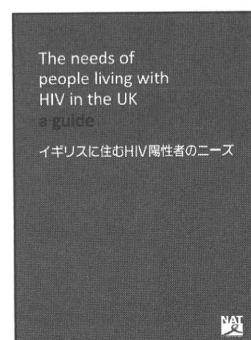
2. 「地域の相談機関におけるHIV陽性者への相談対応に関する調査」

東京都内の行政および民間相談機関に対しておこなった、HIV陽性者対応経験に関するアンケート調査結果をまとめた報告書。HIV陽性者やその周囲の人からの相談対応経験の有無、その内容などに加え、HIV/AIDSに関する知識・情報の把握、それぞれの相談機関がHIV陽性者からの相談にどの程度対応ができるのかといった自己評価について調査。地域でHIV陽性者を支援していくための課題などについて、分析を加えて報告している。2009年3月発行。



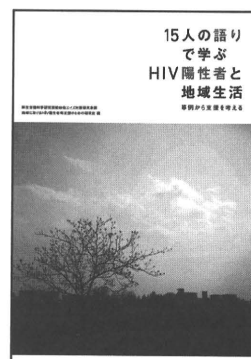
3. 「The needs of people living with HIV in the UK: a guide イギリスに住むHIV陽性者のニーズ」

イギリスのHIV/AIDS団体National AIDS Trust (NAT)が2004年に作成した、イギリスでHIV陽性者の支援に携わる人向けのガイドブックを当研究班にて邦訳。様々なニーズ項目について詳しく解説している他、それらへどうアプローチしていくかについても示唆に富み、日本のHIV陽性者のニーズについて理解する上での基礎資料として活用できる。2009年3月発行。



4. 「15人の語りで学ぶHIV陽性者と地域生活 事例から支援を考える」

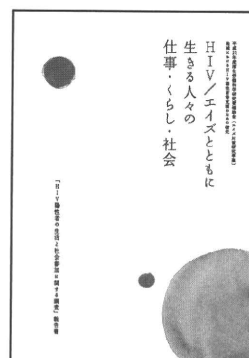
15名のHIV陽性者へのインタビューをもとに、陽性者が抱える就労や薬物依存などの生活上の課題も含めた支援事例を紹介したテキスト。事例ごとに課題の整理と支援のポイントが書かれ、HIV陽性者にとってのよりよい支援を考える上でのヒントを提供。2009年3月発行。



5. 「HIV/エイズとともに生きる人々の仕事・暮らし・社会

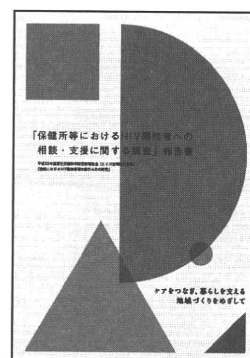
『HIV陽性者の生活と社会参加に関する調査』報告書

全国33医療機関の協力を得て1,203名のHIV陽性者を対象におこなったアンケート調査の結果をまとめた冊子。陽性者の健康状態、収入や就労など生活の状況や社会参加について、またHIV/AIDSに関する施策への評価などの回答について、豊富な自由記述とともに紹介。陽性者の暮らしや、社会とのつながりなどの実像をつかむ上での貴重な資料。2009年11月発行。



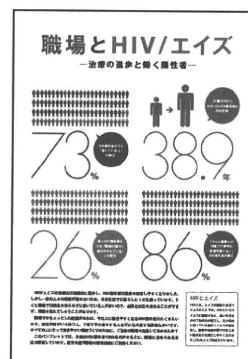
6. 「『保健所等におけるHIV陽性者への相談・支援に関する調査』報告書 ケアをつなぎ、暮らしを支える地域づくりをめざして」

全国の保健所および政令指定都市の保健センターのHIV陽性者への相談・支援状況の現状と課題を明らかにすることを目的として実施された、全国410施設、714名へのアンケート調査結果の報告書。HIV検査における陽性告知時の支援の状況や、陽性者への継続支援の状況などを明らかにしている。2011年3月発行。



7. 「職場とHIV/エイズ —治療の進歩と働く陽性者—

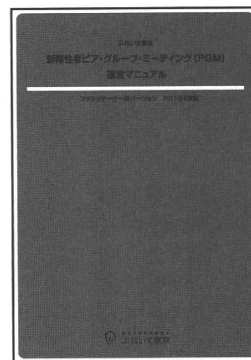
「HIV陽性者の生活と社会参加に関する調査」の結果を中心に、おもにHIV陽性者の就労を支援する人たちのために必要な情報を簡潔に示したパンフレット。陽性者とともに働くことを前提とした職場環境の整備など、最低限押さえておきたいポイントに絞って解説。2011年3月発行。



8. 「ふれいす東京 新陽性者ピア・グループ・ミーティング (PGM) 運営マニュアル」ファシリテーター用バージョン

特定非営利活動法人ふれいす東京で2001年より実施されている、HIV陽性とわかったばかりの人たちのためのグループ・プログラムの運営方法についてまとめた、当該プログラムのファシリテーター向けのマニュアル。2011年3月発行。

※各地域で汎用できるよう、「地域で HIV 陽性者を支援する人のためのガイドブック」にガイドブック用バージョンを収録。



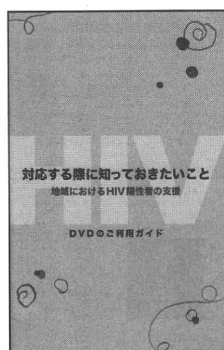
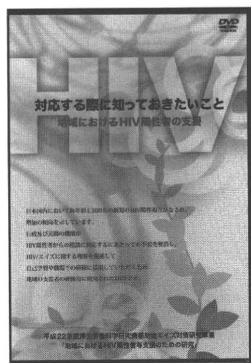
9. 「地域でHIV陽性者を支援する人のためのガイドブック」

電話相談などの支援リソースの立ち上げマニュアルや相談内容のアセスメント方法など、地域でHIV陽性者の支援を始める時や、支援の質をより向上させていく時に参考となるような概念と実践事例を掲載した案内書。理論編、実践編、そして資料編からなる。2011年3月発行。

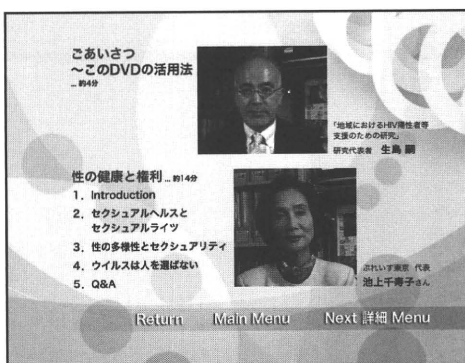
10. DVD「対応する際に知っておきたいこと 地域におけるHIV陽性者の支援」

医療や社会福祉、セクシュアリティなどの専門家や当事者らにインタビューし、HIV陽性者の支援に具体的に役立つような話を講義形式で収録した映像クリップ集にテキスト資料を添付した映像複合教材。自己学習や職場での研修などに幅広く活用できる。2010年10月にDVDのみのパイロット版を、11月からは利用ガイド冊子を封入したパッケージ版として制作・配付。

・パッケージと冊子



・メニュー画面

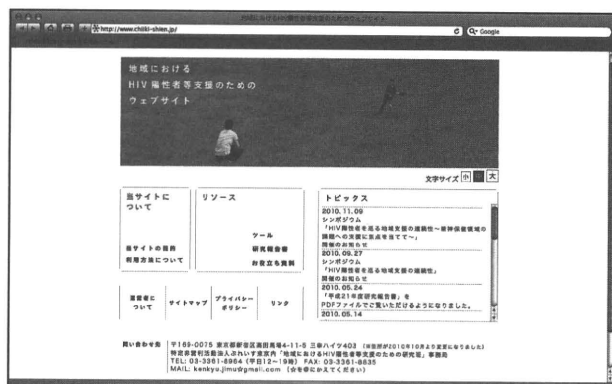


11. Webサイト「地域におけるHIV陽性者等支援のためのウェブサイト」

地域でHIV陽性者やその周囲の人の相談・支援業務に従事する人たちのために役立つ情報をまとめたポータルサイト。研修情報などを提供するトピックスやリンク集の他、当研究班の成果物のデジタル版がダウンロード、閲覧できる（同サイトの広報のための資料も作成）。2009年1月公開。

<http://www.chiiki-shien.jp/>

・サイト画面



・広報資料



Web サイト「地域における HIV 陽性者等支援のためのウェブサイト」

地域で HIV 陽性者やその周囲の人の相談・支援業務に従事する人たちのために役立つ情報をまとめたポータルサイト。研修情報などを提供するトピックスやリンク集のほか、当研究班の成果物のデジタル版がダウンロード、閲覧できる。

<http://www.chiiki-shien.jp/>



厚生労働科学研究費補助金 エイズ対策研究事業

**地域における HIV 陽性者等支援のための研究
平成 20～22 年度 総合研究報告書**

発行日 平成 23 年 (2011) 3 月

発行者 研究代表者 生島 嗣

特定非営利活動法人 ぶれいす 東京 研究事業部

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 4-11-5-403

TEL 03-3361-8964 FAX 03-3361-8835

URL <http://www.chiiki-shien.jp/>

E-mail kenkyu.jimu@gmail.com

表紙写真 磯山 龍朋

